紡ぐ橋

- 交差点を通り過ぎる場所から滞在する場所へ -

家のすぐそばを走る幹線道路。毎日のように通るその道は流通、移動の要として多く の人々が往来している。

しかし、この町に停まる人々は少ない。さらに、縦貫道の開発など、時代の流れに 呑まれたこの町は若者の流出が続き、年々活気がなくなっている。

観光客がほとんど訪れないこの町はただの「通り道」となっている。

この町に限らず、交差点という場所はただの通り道となってしまっているように 感じた。人と人が、車と車が交わるこの交差点という場所は、町の中で最も人の 行き通りが多い場所にも関わらず、通り過ぎるだけの場所になっているのは もったいないのではないだろうか。

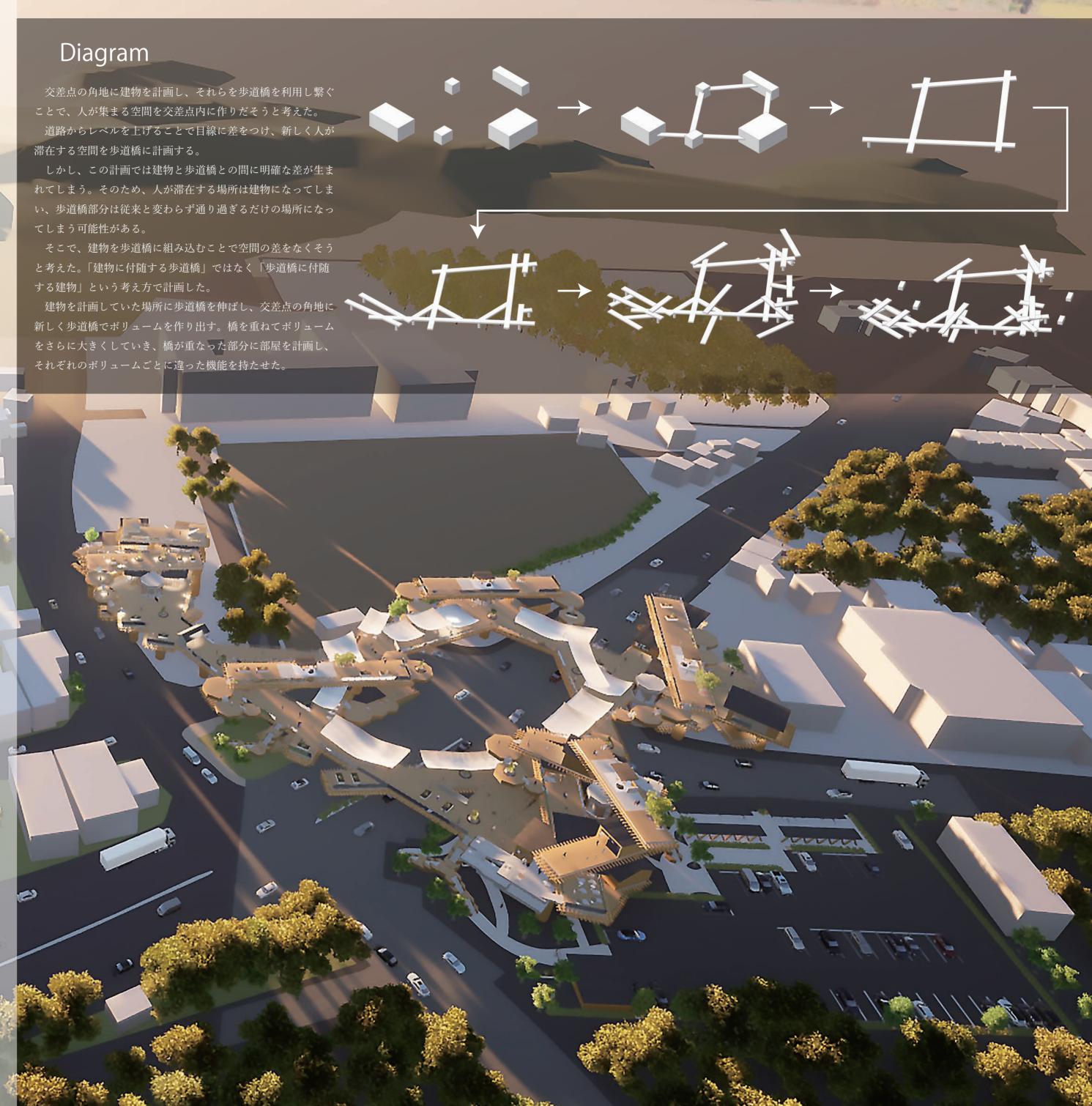
そして、京丹波町という通り道と化している町でも、やはり交差点では多くの車や人が交差する場所である。この交差点という場所を使って人が滞留する場所を作り出し、町の、人の、観光のプラットフォームとしての機能を持たせることで、町全体に働きかける空間を作り出すことはできないだろうか。

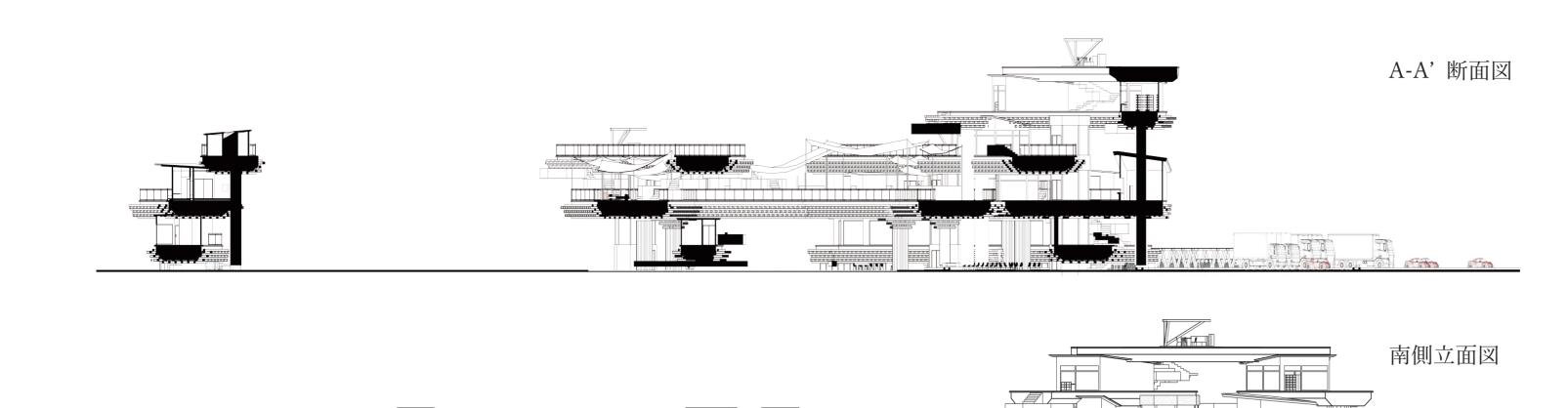
交差点を通り過ぎる場所から滞在する場所へ。













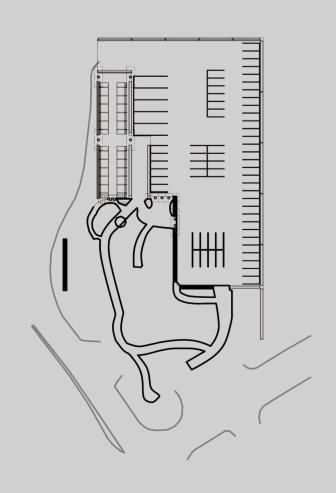
Home Center

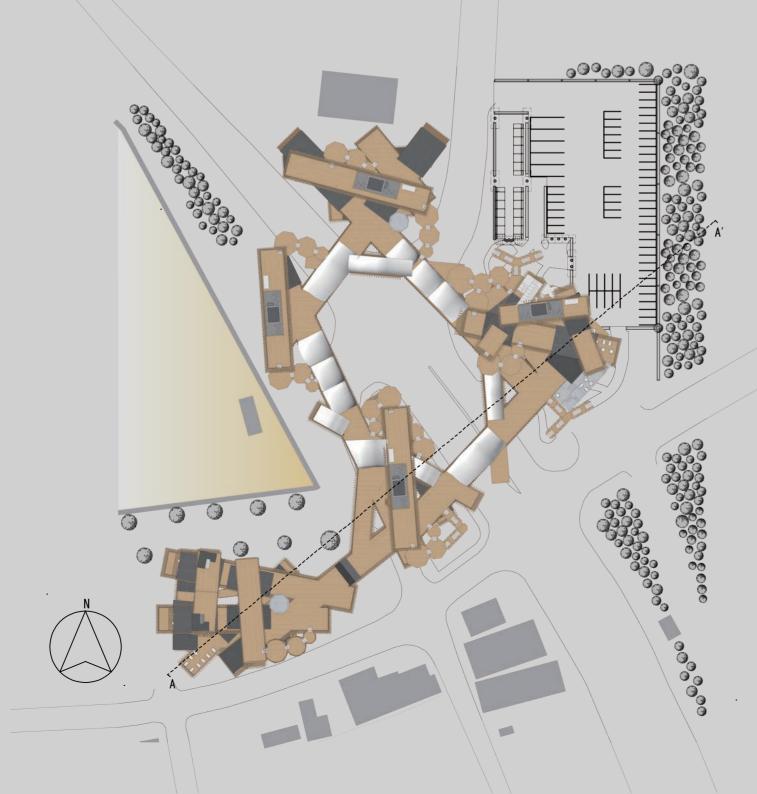
配置図

交差点の角地にボリュームを儲け、ボリューム ごとに異なった機能を持たせた。

道の駅があった部分には駐車場を設け、乗用車だけでなくトラックも入れるように設計している。また駐車場からは遊歩道がボリュームの下を通っていて、所々にフリーマーケットなどを開けるスペースがある。

敷地北側のボリュームが駅、東側が図書館、 中央部がカフェ、西側が宿泊施設とそれぞれの 役割を担っている。





敷地・周辺

京都府船井郡京丹波町にある国道9号線と国道27号線が交わる交差点。京丹波町唯一の片側2車線道路となっていて、多くの人が交わる交差点です。

敷地北西部にある建物は昨年の秋に廃業した道の駅、敷地南西部には今年の11月に移転して空き家となっている元町役場の庁舎が存在します。

交差点が連続した敷地となっていて、地下道路 が通っているが、利便性が悪くあまり使われてい ません。

交差点周辺には小中学校、高校を含めて多くの 施設が位置しており、町の中でも多くの人が集ま る場所になっています。

また、近年再開発の兆しがあり、今年の役場庁 舎の新設に続き、来年の春にはこども園が完成し、 周辺に薬局とホームセンターの建設計画が出てい ます。

今回はこの交差点を敷地とし、耐震の問題で移 転となった役場庁舎、廃業した道の駅部分を含め、 交差点と絡めて計画していく。



Volume 1 宿泊橋

橋西側に位置するボリューム。観光客の宿泊施設としての役割を担う。 メインエントランスは1Fに位置しており、

部屋に至るまでの動線はすべて橋となっている。

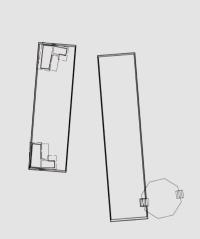
全部で5種類の部屋があり、それぞれ違った特徴を持っている。

他のボリュームでは外壁に木材を使用しているが、唯一のプライベート 空間として他の空間と差別を図るために

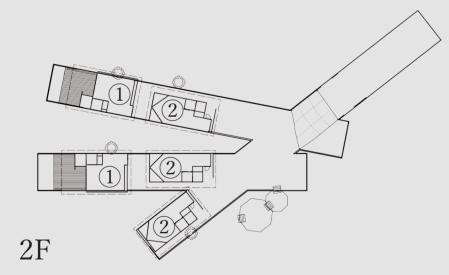
外壁をコンクリートにしている。

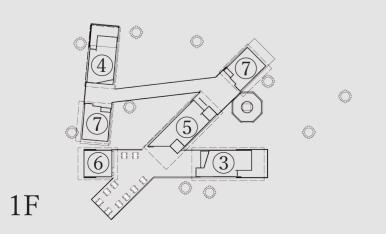






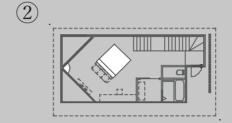
3F

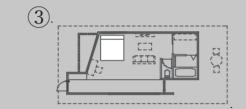


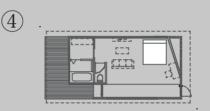


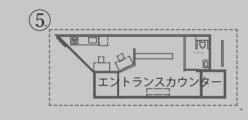
Room

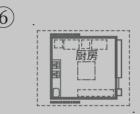


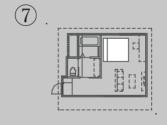














OutsideRestaurant

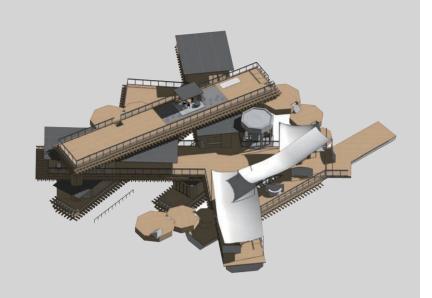
宿泊橋1Fにあるレストラン。開放的な屋外空間からは木 で組まれた橋を眺めることができ、暖かな空気を感じるこ とができる。

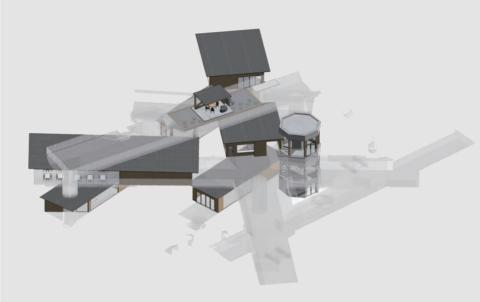
Volume 2 駅橋

橋北側に位置するボリューム。国道9号線と27号線両方に面するこの角地は、 観光客、周辺地域の人々の足となるバスが停車する駅となっている。そのため、 観光案内所やコンビニ、飲食店などが存在する。

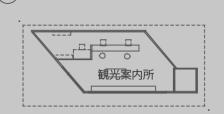
また、インフォメーションを兼ねた管理室も設計している。

駅ということで地域住民、観光客、様々な人が利用できるフレキシブルな部屋を 2か所用意した。





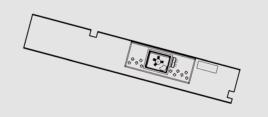




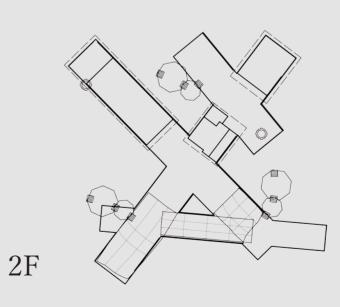


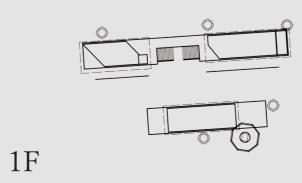


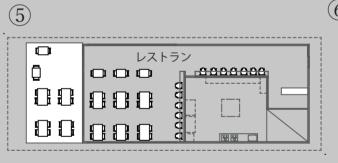
















BusStation

橋の下が駅になっている。観光客の観光目的での利用や、 町民の日常的な利用に使われる。

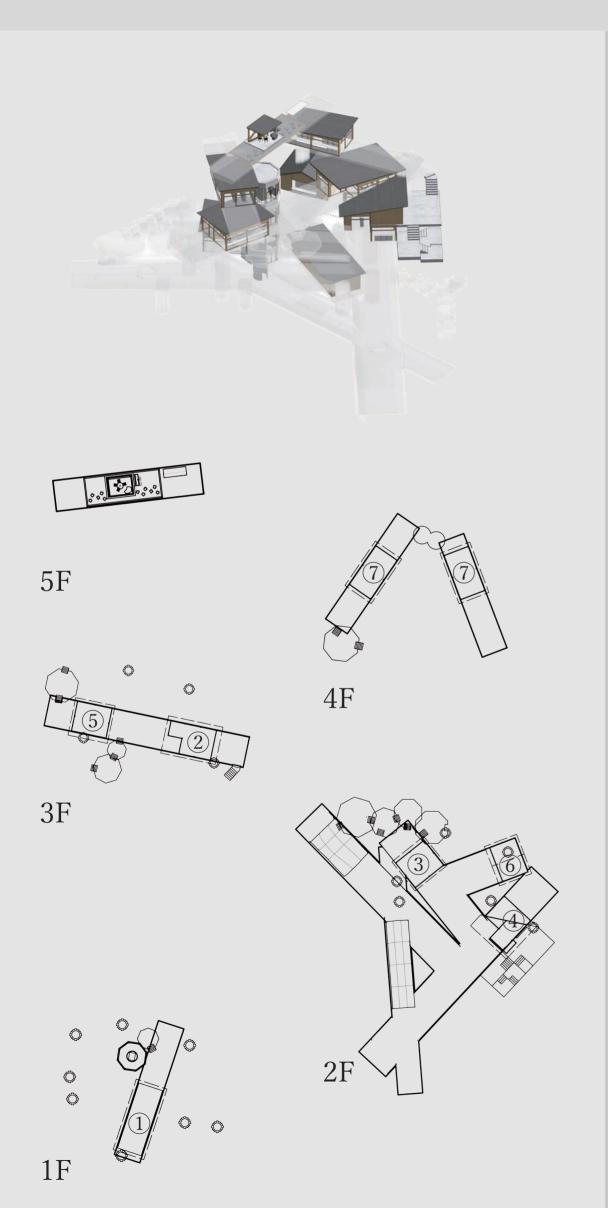
上に橋が架かっているため待ち時間も雨に濡れないように なっている。

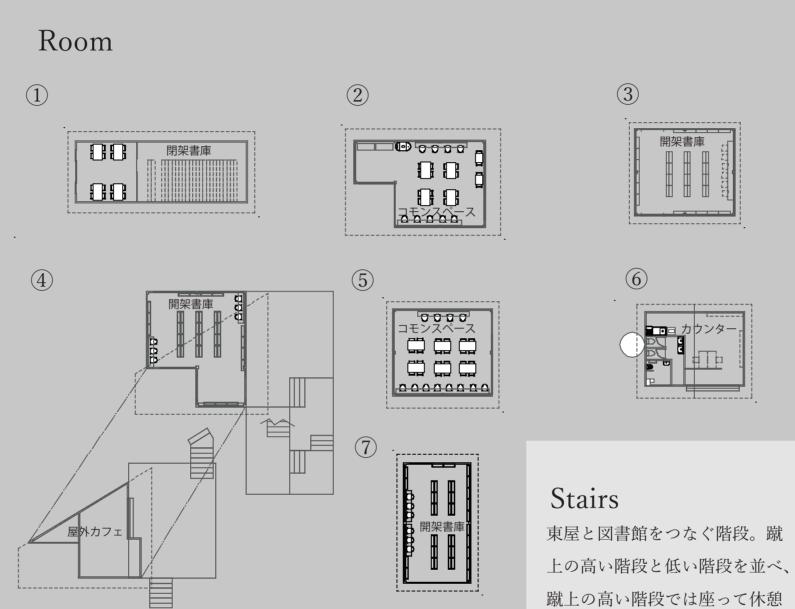
Volume 3 図書橋

橋東側に位置するボリューム。京丹波町に存在しない図書館を設計しました。付近には小、中、高等学校があるため、 勉強場所としての利用を考え、ブラウジングコーナー、勉強スペースを兼ねたコモンスペースを多く設けた。 途中に屋外カフェを設け、オープンな形での利用ができるように設計した。

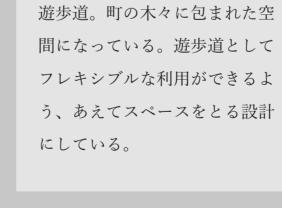
GLには遊歩道が通っており、移動販売車やフリーマーケットなど様々な利用ができるよう、スペースを設けている。











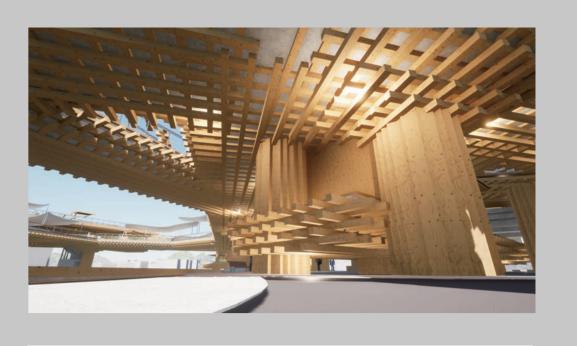
したり本を読んだりすることが

できる。

Walkway







Wood

橋には多くの木材を使っている。この木材は町産の木材を使用しており、町面積の83%を森林が占める京丹波町の木材をアピールする。この背景には、「森の京都」と謳い活性化を図っているにも関わらず、森の有効利用ができておらず、また、町内に林業大学校が設置されているにも関わらず、木材の流通システムが確立されていないことにあります。

道路上に人が滞在するスペースを設計したため、車の騒音等で落ち着かないことが問題になると考えられます。そこで、木材による暖かさの演出と、木材の吸音性能を活かし、他の素材よりも騒音が少なくなるように設計しました。※木材には不燃処理を施します。



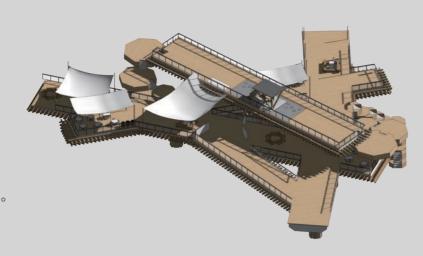
Pavilion

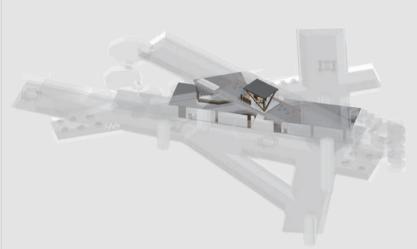
各ボリュームの最上階は東屋になっている。高い位置から橋 や周辺を眺めることができる。

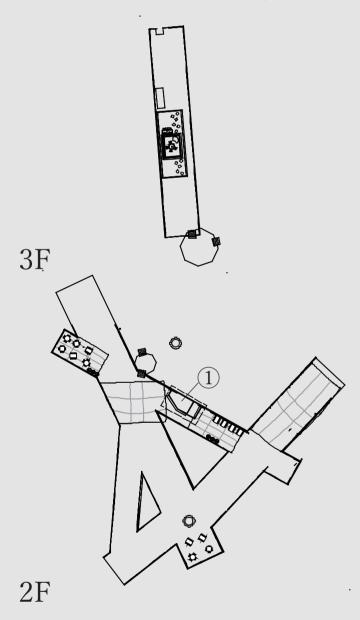
屋外カフェから飲み物や食べ物を持って食べたりすることも 出来る。

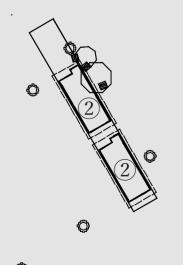
Volume 4 カフェ橋

橋中央部に位置するボリューム。交差点に近い位置に屋外カフェを設け、 滞在するスペースを計画した。時期や時代に合わせて変化できるボリューム として、1Fにある2つの部屋は中を計画せず、ショップとしての利用や イベントスペースとしての利用など時により顔を変えるスペースを計画した。

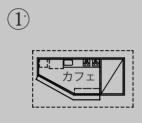


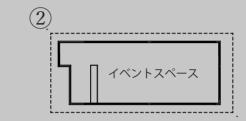






Room





Machine Room

機械室等の必要所室は、もともと地下道が通っていた部分 を利用して設置する。

移動はエレベーターと階段で行う。



Cafe & Booth

パース奥側に見えるのは屋外カフェ。

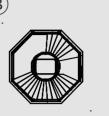
橋の途中に点在するベンチやお気に入りの場所でお茶を楽 しむことができる。

ブースは布のお屋根で覆われている。この布は時期によっ てさまざまな形に変化し、季節によって違う顔を見せる。

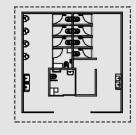
共通部分 Volume 0

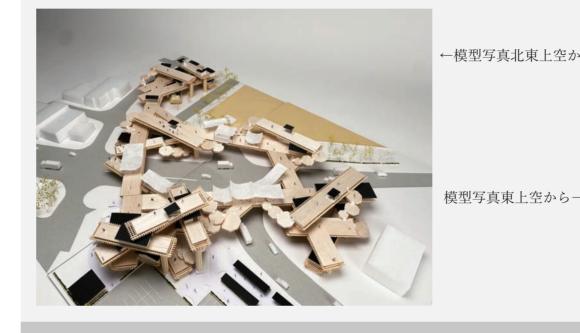
各ボリュームには共通する建物として八角形の塔がある。中にはエレベーターと階段が入った昇降部になっている。 この他に昇降する場所として屋外階段がある。6段ごとに八角形の踊り場があり、人が滞留するスペースを計画してい る。 各ボリュームの一番高い場所には東屋を計画していて、休憩場所として利用できるようになっています。











←模型写真北東上空から









・ソウル路 7017 (韓国) ソウル駅高架道路を車道から歩 性化と都市の活力を吹き込む事 を目的としたプロジェクト。 今回の設計とスケール感が似て

参考事例

参考した。

雲の上のギャラリー

隈研吾氏設計のギャラリー。 温泉とホテルとを結ぶ橋の役割

木(はねぎ)を利用した木材と 鉄骨の棍構造となっている。

橋の下部のデザイン、構造面で

設計になっている。交差点にお ける、歩道橋と建物とを繋ぐ事

例、橋の幅が似ているため、構

造部等参考にした。

(高知県梼原町)



使用サイト

・基盤地図情報ダウンロードサービス https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php

・QRのススメ https://qr.quel.jp/

使用ソフト

- Vectorworks2021
- Twinmotion
- Adobe Illustrator 2022
- Adobe Photoshop 2022 • Google Earth Pro
- Vector Map Maker



A User Flow

2F橋部分はメインの動線となっていて、人が滞在するための仕掛けと して布屋根で覆われたブースを設置している。

中央のパースから見て左側を縦に伸びる橋は観光情報をブースに盛り 込み、観光客がその中から行きたい場所を選び、点でしか存在しなかっ た観光地を線として観光することができる。

中央のパースから見て左側を縦に伸びる橋は滞在スペースとしての利 用が主となる。

上下の横向きに伸びる橋は道路から見て正面の位置になるので、興味を 引くよう、季節ごとに変わった展示のようなものを行う。